

## 書評「鳥類のデザイン」

浅井 直樹<sup>1)</sup>, 2)

- 1) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻  
2) 神奈川県リハビリテーションセンター 神奈川リハビリテーション病院研究部

**鳥類のデザイン  
骨格・筋肉が語る  
生態と進化  
THE UNFEATHERED BIRD**  
カトリーナ・ファン・グラウ 著  
川上 和人 監訳  
鍛原 多恵子 訳  
みすず書房  
2021年



鳥は、軽々と空を飛び、歌い、柔らかくときに彩り豊かな羽をまとう姿から、私たちの文化では平和や自由の象徴とされることも多い。しかし、英題のとおりに装飾を排し、骨格標本となったその姿は、まさに機能美を体現していた。

本書は様々な鳥類の骨格標本の豊富なイラストと、その構造に関する解説で構成されている。世界中に生息する多様な鳥類はそれぞれの生活環境に適応している。それはたとえば食事や移動、休息のとりかたに様々なバリエーションを生じ、骨格にはこれらの機能が集約されていることが見て取れることが分かる。食性に応じたくちばしの形状と頭蓋骨と舌の構造。超長距離の飛行、あるいは高精度なホバリング、あるいは木立の中を高速で旋回するなど求められる飛行能力に応じた翼とその駆動力となる強靭な筋を配置する前胸部の骨格。樹上性あるいは地上性に適応して、場合によっては垂直の樹表につかまつた

り、地面を力強く走ったり、泳いだり、さらには獲物を捕らえることにも特化する後肢の長さや指の配置と構造。種それぞれにこうした機能が高度に融合された姿に圧倒される。そしてあの小さく軽い体にこのようなデザインをほどこした進化という自然界の仕組みにただただ感嘆するばかりである。

そして特筆すべきは、これらの構造を丁寧な手書きのイラストで見ることができることである。驚くべきことに本書を描き上げるのに25年を費やしているのだ。謝辞で語られる本書の成り立ちには著者の鳥類への大変な愛を感じる。実際に丁寧に愛情をこめて描きあげられたイラストであり、つい見入ってしまう。

「はじめに」でも著されているが、本書は専門書ではない。解剖学や生物学の知識は不要である。出てくる鳥類もハゲタカ、コンドル、タカ、フクロウ、オウム、カワセミ、キツツキ、ハチドリ、カモ、ペンギン、ペリカン、カモメ、フラミンゴ、ツル、キジ、ダチョウ、ハト、スズメなど身近でイメージのつきやすい鳥たちも含まれている。添えられた解説文は、鳥類とその解剖学的構造に愛を感じができる名文だが、丁寧に描かれたイラストは眺めるだけでもその美しさを感じることができ、誰でも楽しむことができる本だと思う。

生活とそれに応えるメカニカルな構造は、本誌読者には間違いなく魅力を感じる内容だと思う。ぜひ多くの方に自然界が長い歳月をかけて生み出した究極の機能美を感じてみてほしい。

1) 神奈川県立保健福祉大学  
〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町 1-10-1